

装飾古墳の石室等の保存環境について

1. 温度・湿度について

装飾古墳を取り巻く保存環境には、温度や湿度等をはじめとするさまざまな因子が影響を与えている。

さきに実施した実態調査の回答の「6. 装飾の状況について 現状の問題の記述」には、以下のような温湿度に関わる記述がみられる。

泉崎横穴：メンテナンスやモニタリングにかかる予算確保がきびしい

八女古墳群（石人山古墳）：石室内にコケ類・虫類が棲息 温湿度も一定ではない

五郎山古墳：屋外温湿度計の観測ができていない

穴観音古墳：石表面が乾燥と結露を繰り返している恐れがある

ガランドヤ古墳（2号墳）：石表面が乾燥と結露を繰り返している恐れがある

チブサン・オブサン古墳（チブサン古墳）：市独自の年間を通じた温湿度データを収集していない

釜尾古墳：天井の結露が激しい

千金甲古墳（乙号）：年間を通じた温湿度のデータがない

2. 水等について

上記1. 以外に、保存環境へ影響を与えられる因子として雨水等があり、上記の実態調査の回答における記述には以下のようなものがある。

造山古墳第一・二・三・四・五・六古墳（千足古墳）：石室内への防水措置を図り、石障の保存等を講じる

田主丸古墳（寺徳古墳）：雨水及び生物の侵入 扉の老朽化

竹原古墳：石室内への雨水や泥の侵入、カビの発生等

桜京古墳：閉塞の密閉性が低いため、雨水の流入が想定される

西隈古墳：線刻等に特に問題は無いが、雨水等による土砂の流入

鬼ノ岩屋古墳（2号墳）：雨水が流入し、石室壁部の石材が床に落ちている

※ 温度・湿度・水等、環境に係る因子は、装飾古墳の形態等の分類（資料2 参考資料）を貫く共通の影響因子として存在していると考えられる。

装飾古墳の保存管理の分類について

1. 遺構の形態等による装飾古墳の分類

（1）石棺等への彫刻等

石棺に装飾が行われたもの。棺身の外周や蓋部分に線刻や装飾の文様があるものが多い。

（2）横穴式石室

古墳時代後期に古墳の横に穴をうがって、墓室部分に、三方の壁と上部を先に作って、一方の壁に出入口を設け、最後にそれを閉鎖する形式の石室。

（3）横穴

自然の崖面に墓室を彫り込んだものであるという特色のほか、装飾の場所を墓室の外部に求めたものが多い。

2. 装飾壁画の分類

（1）彫刻壁画

浮彫と線刻によって彫刻された壁画

（2）彩色壁画

1色、2色以上の色彩を用いて彩色された壁画

3. 装飾古墳の保存方法の分類

（1）主体部等に保存施設を設置

（2）覆屋を設置

（3）開口部・入口等に扉等を設置

（4）開口部周辺等への囲さく等を設置

（5）その他（何もしない、装飾が屋外に露出するもの等）

4. 装飾部の劣化等の状況の分類

（1）彩色（顔料）の剥落及び褪色等

（2）石棺等の石材の劣化等

（3）生物被害（カビ等の微生物、地衣類、木根、ムシ、小動物等）

（4）塩類等の被害

（5）土砂等の流入による汚れ等

（6）その他

装飾古墳の保存管理の分類

